

本村会頭コラム

会頭独白
8

5期目の新体制は「ワンチーム」で
屋台復活大作戦など新規事業企画
激動の時代に新たな使命

一層のご理解とご協力を

6回目の年男になった今年は、会頭に就任して初めてといてもいくらい、様々なことがあります。

春には政府から身に余る旭日小授章を頂き、6月には久留米商工会議所設立120周年記念のお祝い行事、10月は皆さんから受章のお祝い会を催してもらいました。そして11月からは引き続き5期目の仕事をやらせていただいでい



創立120周年記念式典

ます。令和元年は私にとって忘れられない年になりました。

11月1日、会議所は今期の新役員を決める臨時議員総会を開き、今後3年間に向かって新たなスタートを切りました。継続して私が会頭ポストを引き受けることになりましたが、改めて会員5000人の皆様にはお礼を申し上げますとともに、商工会議所活動へのご理解をいただきご協力をお願いいたします。

委員会の整理統合も

5期目ともなれば、会員の中には、情性に流され、活発な活動ができないのでは、との見方をする向きもあるのではないだろうか。私も他の人物がそうなら思うはずです。

だが、その不安は今期、会議所が打ち出した目玉事業を理解していただければ無くなると思じています。

目玉事業は、再任記者会見で発表した委員会構成の整理・統合や新たな特別委員会の設置です。中

小零細企業のニーズや経済のトレンドに合わせ、15の委員会を7に整理統合し、4つの特別委員会を設置しました。久留米市の中心に屋台を展開する「屋台復活大作戦」特別委、来年の東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地の成功を目指す特別委、西鉄久留米駅周辺開発事業を後押しする特別委などです。どれも元氣な久留米の仕掛けになるものです。

久留米駅周辺の再開発に欠かせない岩田屋久留米店の存続を、三越伊勢丹HDの杉江俊彦社長が11月の決算発表の場で明言されたことは、こうした私たちの活動を勇気づけるものになりました。

ラグビーW杯に感激

「ワンチーム」。今年秋、桜のジャージーが街に溢れかえり、ラグビー・ワールドカップ大会に沸いた日本。日本代表が勝利するたびにファンが口にした言葉です。勝利を目指して海外出身選手と日本人選手がチーム一丸となって闘った姿を現しています。

私もチケットが手に入ったので日本が勝ってベスト8を決めたスコットランド戦を観戦しました。肉体同士が激しくぶつかり合う世界最高峰の試合。勝利の余韻に浸りながら、躍進の原動力になった「ワンチーム」という言葉が頭脳にしみついていました。

5期目がスタートした今、改めてこの「ワンチーム」の精神はすべてに通じる精神だと思っようになりました。

三つのエネルギーが融合

自分のビジネスの充実と拡大を人生の目的としている会員の皆さん。一方、久留米の発展を永遠の目標として頑張っている会議所と行政。この三つのエネルギーが融合しあって、活力ある久留米が継続していけるのです。来る課題に「ワンチーム」で議論し、利害を乗り越えながら克服していく。他地域との競争を勝ち抜くにはそれしかないとの思いを強くしています。

世界は大きく揺れ動いています。貿易摩擦に端を発した米中新冷戦、日韓の仲たがいなど、毎年、日本を取り巻く情勢が変化して、国内環境があつという間に変わるようになってきました。例えば海外からの観光客の減少、韓国内の日本商品不買運動などがそれです。昨日まで商売繁盛に酔っていた業種が、今日には赤字に泣く、そんな現象があちこちに見られるようになりました。

そんな激動の時代を生きるには地域で「ワンチーム」をつくっていくことが、勝ち残る策ではないかと考えています。

江戸時代から「久留米商人」と言われるほど、商才に長けた人物を輩出してきた久留米ですが、一方では、「ケチで保守的」との言われ方もされています。「ケチ」は人それぞれですが、そろそろビジネス面では「保守的」との評は返上して「ワンチーム」で前進して行きたいものです。